

令和5年度 学校評価シート

青梅市立吹上中学校

<学校経営方針の重点>

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 確かな学力の向上（知） | 2 豊かな心の育成（徳） |
| 3 健やかな体の育成（体） | 4 地域に根ざした学校づくりの推進 |

「評価」は「本年度の重点」や「具体的な方策」について

A：達成できた

B：ほぼ達成できた

C：あまり達成できなかった

D：達成できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者 評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
確かな学力の向上	基礎的・基本的な学習内容の定着と発展的な学習の充実	個に応じた学習指導の充実に向け、きめ細かい指導を徹底し、指導方法の工夫と改善を図る。	①生徒のよい点や可能性を見つけ、伸ばす指導の工夫を行う。	B	机間巡視などしっかり生徒把握をし、必要に応じて声を掛けるなどして支援した。	ICT機器の活用を通して、個に応じた指導を進めていく。	B	・(①について)第42回体育大会「パワー～団結こそ最大の力～」を全部拝見しました。生徒が自信を持って活動し吹中に所属しているという意識を強く感じました。この根元には先生方が生徒のよさ、可能性を伸ばされているからだと思います。 ・(②について)9月の道徳地区公開講座で授業を拝見させていただきました。各先生方が「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を大切にしていることがよくわかります。この4つの取組みに生徒同士のかかわりが多くなるとよいと思います ・(③について)3組の授業では生徒同士でオペの順番でそれぞれの生徒の価値観で意見を出し合っていてすばらしかったです。全体としては生徒が遠慮している様子が感じられました。自分の受けとめを他者の中で生かす努力が大切です。 ・(④について)9月の道徳地区公開講座で3学年の授業で自分の考えをICTで表し全体で確認できる様子を拝見しました。自分の考えを表現するための方法でよいと思います。佐藤副校長先生の学運協での話で生徒が自己管理して学習に生かしていることすばらしいです。 ・(全項目について)学習面については外部からの把握は難しい。実際に学習指導をされている先生方の分析結果を見ると、	・体育大会や特別の教科道徳について評価していただきました。 ・これからの授業は「教師が教える」だけではなく、生徒が自ら見通しを立て、他者と協議しながら調べ、考え、自分なりの答えを導き出すような主体的な学びが求められています。これからの教員にはそれに合わせた授業デザインが求められていると言われています。これからも研修の機会を設けながらスキルアップを図っていきま
			②めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に設定した授業を行い、生徒の主体的な学びを促す。	B	概ね取り組めたが、振り返りの時間を取れないことが課題となった。	ICT機器を用いた生徒による自己評価（振り返り）の仕組みを作る。	B		
			③生徒が自分の考えを表現したり、他と比べたりしながら、自分の考えを再構築する場面を設定する。	B	概ね取り組んでいるが、自己表現の苦手な生徒や思考の再構築についての指導は課題となった。	個に応じた指導を充実させるとともに、多くの教科で情報を共有し指導につなげる。	B		

			④基礎的・基本的内容を繰り返し行い、粘り強く学習する態度を育むため、ICT機器を活用したり、課題設定を工夫など、主体的に学習する意欲を育む。	B	ICT機器を活用する機会は増やしている。今後も教員のスキルアップは必要である。	研修機会を増やすとともに、教員間で情報を共有し、スキルアップを図る。	A	各項目ともに「B」評価となっており、「ほぼ達成できた」との結果が見て取れる。また、それぞれの項目の改善策もしっかりと立てられているので、更なる改善を期待しつつ、この4項目を妥当なものとして評価したい。	す。
豊かな心の育成	互いの人格を尊重した人権教育を推進し、生徒の社会性を育む	いのちを大切にすることの心を教育を推進し、いじめの根絶を目指して、思いやり、認め合い、支え合う指導を充実させる。	⑤「特別の教科 道徳」の指導に向け、広い視野から現在の課題をとらえ指導につなげることで、「こころの教育」を充実させる。	B	命の大切さ、いじめ防止など、昨今の教育課題を意識し、指導につなげた。	今後も指導計画に沿った授業を進めるとともに、その時の課題に沿った指導を行う。	A	・(⑤について)超高齢化で共に生きる「ばあば」命の価値「オペの順番」「いのちの値段」「お父さんがつばに入ってしまった」「あの日……」等現在の課題を広い視野でとらえる指導がなされている。 ・(⑥について)11月の第3回学運協で佐藤副校長先生からいじめのアンケートを行ったところ4件の申し出があり、事実確認を行いいじめの早期発見、解決、対応を行ったとのこと、ありがたく、これからもよりよろしくお願いいたします。いじめ問題対策委員会での情報共有もよりよろしくお願いいたします。 ・(⑥について)思春期の生徒の集団生活における人権教育はとても大切である。いじめのアンケートを活用し、生徒の悩みや心配ごと、いじめの実態などを把握し、いじめの未然防止や早期発見を行うことは重要である。生徒の性格は十人十色。生徒が先生方を信頼し、何でも相談できる環境を整え、生徒と真剣に向き合って下さることを願います。 ・(⑦について)私は根ヶ布2丁目地区で「朝の見守り」をしています、いつもあいさつ礼儀がよい生徒とかかわれてありがたいです。学校を訪問した時も同様に感じています。 ・(⑦について)昨年に比べると朝のあいさつがない子が多く見られた ・(⑦について)吹上中の生徒さんは外部の	・高い評価をいただき、吹上中学校の生徒一人一人の健全育成が進んでいることを感じました。これからも特別の教科道徳をはじめあらゆる教育活動を通して豊かな心の育成を図っていきます。 ・いじめ問題については根絶を目指すもののその難しさを感じています。早期発見、早期対応をするために教職員一丸となって取り組んでいます。 ・挨拶は社会に出た時の基本中の基本です。これからも生徒とともに取り組んでいきます。 ・感染症予防の知
			⑥学校いじめ防止基本法に則り、いじめアンケートを活用し、いじめの未然防止・早期発見・解決を図る。	B	未然防止や早期対応に向け、情報共有を進め全校体制で取り組むことが対応できた。	日頃より生徒が相談しやすい環境を築き、早期対応を図る。	A		
			⑦規範意識の醸成、あいさつの励行、礼儀作法の徹底を図り、生徒の社会性を育む。	B	挨拶をしっかりできる生徒は多い。非を認めない生徒の指導に苦慮することがある。	多くの教員が声を掛けるなど、人間関係を育みながら指導に当たっていく。	A		

			⑧感染症に対する正しい知識を学び、落ち着いた生活を取り戻す。過剰に反応することなく、自他を思いやり、互いに支え合う心を育む。	B	感染症への過剰な反応はなく、落ち着いた学校生活を送ることができた。	多くの情報に惑わされることなく、感染症の知識を増やしていく。	A	人間が学校訪問をした際や、外でもいつも気持ち良い挨拶をしてくださるので「A」の評価が妥当。 ・(⑧について)佐藤副校長先生の感染症の状況がかわっても生徒が正しく対応されている話をなさっていて、ありがたいと思いました。 ・(⑧について)多くの生徒がマスクを着用して通学をしていたと思います。 ・(⑧について)感染症の項目についても過剰な反応はなく落ち着いた学校生活を送れたとのことなので「A」評価が妥当。	識は生徒一人一人身についています。これからも適切に対応できるよう取り組んでいきます。
健やかな体の育成	心身ともに健康でたくましい生徒の育成	心と体の健康を増進させるとともに、生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進し、不登校の未然防止を図る。	⑨体力テストの結果を分析し、体力向上に向けた教育環境を整える。	B	概ね取り組んでいるが分析内容の共有に課題が残った。	保健体育科を中心に、体育的行事なども生かすなど環境整備を進める。	B	・(⑩について)第42回体育大会「パワー～団結こそ最大の力～」を生徒会活動の自主性、生徒の自主性が吹中体育大会を創造的なものにしました。 ・(⑩について)思い出をつくれる行事が戻ってきて良かったと思います。 ・(⑩について)家庭において子どもの声を傾聴し、先生方の意図について様々な見方、考え方ができるのでは、という話を何度かしました。継続的に双方向のコミュニケーションをして頂くことを期待します。	・体育大会では実行委員を中心に生徒自ら運営することで生徒の力を伸ばすことにつながりました。またこれらの活動が生徒の自己肯定感の向上にもつながったと思います。 ・不登校対応も様々な手立てを駆使し改善するよう取り組んでいます。
			⑩生徒会活動や行事を通して、生徒の主体的な活動や生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進する。	B	生徒会、委員会活動をしっかり行っている。	生徒の責任感を培うため、生徒に任せる場面を増やしていく。	B	・(⑪について)学運協で吹中の先生方が各機関と熱心に不登校対応をしていることはありがたくお聞きしました。不登校は心のことですから、学校精神科医、スクールカウンセラー等専門の知見を得て支援をすることも求められます。	
			⑪生徒に寄り添う指導を継続しながら外部機関と連携し、不登校生徒と家庭の支援を組織的に行う。	B	概ね対応できている。必要に応じて外部機関との連携も進めた。	情報を共有し、多くの教員が関われるよう環境を整える。	B	・(全項目について)外部からの把握が難しいので指導されている先生方の「B」評価「ほぼ達成できた」を分析結果のコメントを理解したうえで支持したい。	

その他の重点	特別支援教育の推進	⑭生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。	・教育相談活動を充実させるとともに、生徒の特性等について共通理解を図る。 ・SCや外部機関と連携し、課題解決を図る。 ・特性に応じた指導方法について研修を行い、生徒指導に生かす。	B	特別に支援の必要な生徒は多く、課題も多岐にわたっている。その中、相談活動の充実に努めた。	特別に支援の必要な生徒の指導に向け、研修の機会を設け知識を深めることで、さらに充実させていく。	A	・(⑭について)道徳地区公開講座で3組の授業を拝見させていただきましたが、一人一人の特性を生かした指導を関連の先生方が努力されている姿に心打たれました。これからも学校全体でこの努力を生かして下さい。 ・(⑭について)特別に支援の必要な生徒さんお指導は課題が多く専門的な知識も必要とされると思いますが、生徒さん一人一人の特性を理解し「学校が好き」と思ってもらえたらよいですね。	・これからの学校においてはインクルーシブ教育が求められてきます。そのためのスキルが教員にも求められてきます。日頃の教育活動をはじめ研修の機会を増やしたいと思っています。 ・現在校務改善に向け取り組んでいます。今後地域委託などの部活動改革をはじめ、学校も変化してまいります。地域、保護者の皆様にもご理解いただけるよう丁寧に進めていきます。
	学校における働き方改革の推進	⑮校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保し、教員のライフワークバランスを整える。	・校務支援システム等を活用し、校務改善を図る ・SSS等の支援員を活用し、生徒と向き合う時間を確保する。 ・校務を整理し、在校時間を適正にする意識を高めるとともに、定時退勤推奨日を積極的に活用する。	B	概ね取り組んでいるものの業務量の改善にはなお課題がある。	さらに校務を整理するとともに、ICT機器やSSSの活用を進め、生徒と向き合う時間を増やしていく。	B	・(⑮について)校務改善に努力されている話を学運協で平岡校長先生、佐藤副校長先生からうかがっています。校務改善には課題が多々あると思いますが、これからもご尽力下さい。 ・(⑮について)先生方は常に生徒さんと向き合い指導されていると思います。ありがとうございます。「業務量の改善にはなお課題がある」という点が気になります。先生方も一人の労働者であるという視点で捉えると、ライフワークバランスを整えることは大切であり、更なる改善が必要と思われます。	

評価について

A : A の評価者が 80%以上で C 以下の評価者が 0 名の場合は「A」

⇒ C 以下の評価者がいた場合は「B」

A の評価者が 70%以上 80%未満だが一番多い。かつ A、B 合計の評価者が 90%を超え、C 以下の評価者が 0 名の場合は「A」

⇒ C 以下の評価者がいた場合は「B」

B : B の評価者が一番多い。かつ A、B の評価者が 60%を超えている場合は「B」

⇒ 60%を超えていない。かつ C 以下の合計が B の値を超えた場合は「C」

C : C の評価者が一番多い場合は「C」

D : D の評価者が一番多い場合は「D」